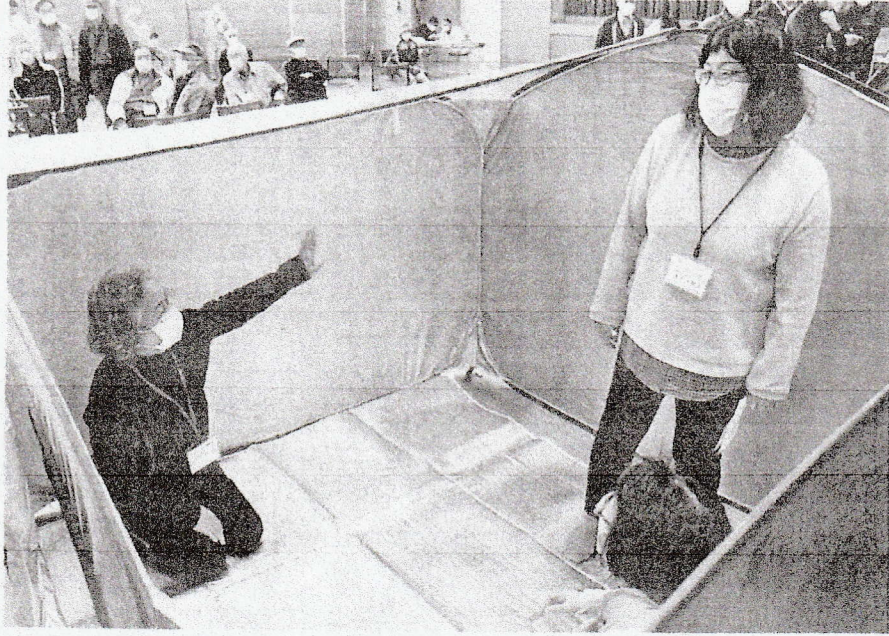


秋田市 県央

社会地域報道部

☎018-8888-1830
FAX018-8823-1780

間仕切りテントの中に入って広さなどを体感する参加者



避難所設営、共助の心で

新屋住民、水害に備え訓練

秋田市新屋地区の住民を対象にした「防災安全を見て考える会」が1日、西部市民サービスセンターなどで開かれた。全国各地で水害が増える中、洪水対策について考えてもらおうと、新屋振興会と市が企画。住民約60人が水路やため池を見学したり、避難所設置訓練を行った。水害への備えを学んだ。

新屋地区に近い浜田字町ノ下では今年7月、住宅前の道が約50センチにわたって冠水し、一時通行止めになった。このため、住民たちは新屋地区のほか、7月に冠水した浜田の水路や、雨水がたまり

あふれる可能性があるため池を徒歩で回り、「ここがあふれたら大変だ」など意見を交わした。西部市民サービスセンターでは、避難所になった際に設置する間仕切りテントの設営を体験。はじめに市の職員が「テントは新型コロナウイルスの飛沫予防のほか、プライバシースペースの確保に役立つ」と説明した。テントは折り畳み式で組み立てがいらす、住民らは協力して5分ほどでテントを完成させた。その後、実際に中に入り、「思ったより広いね」などと話していた。テントの設営に参加した横

ため池も見学した



験が災害時に生きると思おうと話した。

「考える会」で進行役を務めた中野鋼一さん(66)は

「初めて開催してみ、住民の防災に対する関心の高さが分かった。来年もテーマを変えて行い、防災について考えるきっかけづく(進藤麻斗)

県内各地域の話題